
350日目の僕ら

西川なつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

350日目の僕ら

【コード】

N5031Z

【作者名】

西川なつ

【あらすじ】

猿飛さんと片倉さんの話。

「ごめんなさい、と頭を下げ返って来たのは、ああうん。」

ああうん？さっきまで前髪がバチバチ帯電していた人がああうん？なあ、それ。その手元のそれは内容とか頭に入ってるの？例えば俺が尋ねたとして答えられるの、あんた。

なんてこつた。静まり返った電流に、殴られるより泣かれるより堪えるなんて。

「ごめん」

本当は俺のほうこそ謝って欲しいと思ってるなんて事は間違っても口にしないし、土下座とか言い訳とか考えない訳でもないけど、それをして許されるならここまで必死になる道理もない。だから躊躇うんじゃないか。指を伸ばそうか、言葉を紡ごうか。撤退の選択肢は真つ先に外した。

庭の鴉が一鳴きし、いよいよ俺の分は悪くなる。

なんだよ、お前まで俺様の所為だったの？

いやまあ俺様の所為ですけど。

ですけどね、それでも。

俺の所為なら尚更ああうんは頂けないでしょう。

「お前えの所為じゃねえ。勘違いしてただけだ」

低い声色に安心した矢先にこれだ。竜の右目は懐刀だそうだけど俺相手に伝家の宝刀を抜くのは勿体無い。というか抜かないでくれ。泣きたくなるから。

「……あんたの前の俺は俺じゃなかったか」

「そうならいいと思っていたがな」

解らなくなつちまった、と呟く背中はどう答えればいい。俺の知らない俺をあんたは知ってると思ってた。それとも知らない俺しかあんたは知ろうとしなかったのか。

馬鹿だなあ、本当。

あんたも一緒にしたにしまう俺を許してくれ。

だって、そうだろ。絶対的に振り向かないそいつはもしかしたら
もしかするんじゃないのか？

「片倉の旦那」

「…なんだ」

「俺様今とっても愛されてる気分です」

「……………ああ？」

「いや実は愛されるってどういう事か知らないけどね」

「は？……………というか、ちょっと待て」

「愛するって事もよく解ってないけどね」

「おい猿飛っ」

「愛って意外と難しいもんでもないかもなあってね」

「なんで近付いて来るんだてめえ！」

なんでって、あんたの所為だよ。

柄にもなく抱き締めてしまったのはあんたの所為だ。

「……………訳分かんねえな」

その声が実際どうだったかは置いて、俺には少し拗ねてるよ
うに感じたのは、だからしょうがない。だからあんたの所為だ。ど
うしてくれるんだ。意地とか面子とか、どうでもよくなっちまうあ
んたの体温とか。

「ごめん」

返事はない。それでも確信出来る。だからつまりそういうもんじ
やないのか。これがそういう愛ってもんじゃないのか。

ああうんじゃない返事を勝手に答えにしてもいいだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5031z/>

350日目の僕ら

2011年12月17日00時56分発行